

# あいち農産物生産流通レポート

2022年5月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ 輸入アサリ、しいたけの原産地表示の考え方について	(食育消費流通課) 1
・ 「第17回食育推進全国大会inあいち」を開催します!	(食育消費流通課) 3
◎ 東日本情報	
・ 生産者の「旗印」を作ることが、ブランドにつながる	(東京事務所) 4
◎ 西日本情報	
・ 「いいともあいち運動」の取組について	(食育消費流通課) 6
◎ フラワーページ	
・ 花き消費回復対策事業について	(園芸農産課) 8
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	9
・ 名古屋・東京市場における青果物の5月の見通し	10
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の5月の見通し(県内市場)	22

※今月「地域トピックス」はありません

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課 (052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ (03)-5492-5400



## 輸入アサリ、しいたけの原産地表示の考え方について

食育消費流通課

食品表示法に基づく食品表示基準により、生鮮食品には原産地を表示することが義務づけられており、その表示方法については、原則として、国産品は都道府県名や水域名、輸入品は原産国名を表示することとなっています。また、複数の産地で育成された場合、最も育成期間の長い場所を原産地として表示することが基本的な考え方です。

このたび、不適正な表示を防ぐ観点から、2022年3月30日付で消費者庁が食品表示基準Q&Aを改正し、下記の品目についての原産地表示の考え方が厳格化されました。

## 1 輸入アサリ

アサリの原産地表示については、消費者庁から「最も畜養期間が長い産地を表示することとし、そのことを証明できる必要がある」という考え方が示されていました。

しかしながら、外形により成育期間を正確に把握することが困難であり、事実と異なる成育期間の証明等をもって、国内での成育期間が海外での成育期間より長いこととして原産地を国内の産地と表示する産地偽装が問題となりました。

このことを受け、今回の食品表示基準Q&A改正により、畜養を「出荷調整用等のため、短期間一定の場所に保存すること」と定義した上で、畜養の期間は育成期間に含めない、輸入したアサリの原産地は畜養の有無にかかわらず輸出国となる、などの考え方が示されました。

## 水産物の原産地表示の基本的な考え方

複数の産地で育成された場合、最も育成期間の長い場所が属する都道府県名を表示する。



## 食品表示基準Q&amp;A改正後（厳格化）

- ・ 畜養の期間は貝類の全体の生育期間には含まれない。
- ・ 輸入したアサリの原産地は畜養の有無にかかわらず輸出国となる。

## 2 しいたけ

農産物については、収穫地を原産地として表示することが基本的な考え方です。しかし、しいたけの場合は、しいたけの畑とも言える菌床やほだ木の製造された場所と、しいたけを収穫した場所が異なる場合があります。近年は、海外から輸入された菌床から育てたしいたけを国内で収穫し、国産として出荷する例が増えてきており、このような海外で生産された菌床由来のしいたけと、国内で生産された菌床由来のそれとを消費者が区別することが出来ない状況となっていました。

このため、今回の食品表示基準Q&A改正により、「原木（ほだ木）又は菌床培地に種菌を植え付けた場所（植菌地）を原産地とする。」との考え方が示されました。

ただし、生鮮しいたけは2022年9月末日まで、しいたけ加工食品は2023年3月末日まで、新たな表示ルールに対応するための経過措置期間が設けられています。

農産物の原産地表示の基本的な考え方

収穫地を原産地として表示する。



食品表示基準Q&A改正後

原木（ほだ木）又は菌床培地に種菌を植え付けた場所（植菌地）を原産地として表示する。

「第17回食育推進全国大会 in あいち」を開催します！

食育消費流通課

2022年3月号でもご紹介させていただいたとおり、「第17回食育推進全国大会 in あいち」が2022年6月18日、19日に開催されます。

第17回大会のアンバサダーとしてNHK「チョコちゃんに叱られる！」でMCを務める「チョコちゃん」が会場に登場するほか、学生と企業がコラボしたレシピコンテストの実演、約180団体による食育に関する展示・PRブースの出展、食育セミナーや県産農産物を使った商品の販売など多彩な企画を用意しています。是非ご来場ください！

いただきます♡



# 第17回 食育推進全国大会 in あいち

“SHIN化”する「いきいき食育」  
あいちから  
～健康な体、豊かな心、環境に優しい暮らし～

2022.6/18(土) 10:00-17:00・19(日) 10:00-16:00

Aichi Sky Expo (愛知県国際展示場) (常滑市) **入場無料**

Aichi Sky Expoへのアクセス:名古屋駅から電車で約30分、中部国際空港から徒歩約5分 展示ホールA・会議室

約180団体による食育に関する展示・PRブース、飲食ブース、各種講演会、ワークショップ、ステージイベントなど盛りだくさん!

チョコちゃん  
第17回大会  
アンバサダー  
に決定!

チョコちゃんと一緒に  
食育を学ぼう!

6/18(土) 11:15~11:45、16:00~16:30  
6/19(日) 10:15~10:45、15:30~15:50  
会場:いきいき食育!「メインステージ」

**あいちの食育ひろば**  
ステージコンテツツ

会場:いきいき食育!「メインステージ」

6/18(土) 10:15~11:15  
開会式・第6回食育活動表彰 表彰式

6/18(土)・6/19(日) 各日開催  
学生も「いいともあいち」コラボ!  
「学生レシピコンテスト」  
企業とのコラボメニューを  
考察し会場で実演!  
NO.1はどのチーム?

6/18(土) 13:15~13:45  
食育トークショー  
「子どもと子どもを支える  
ファミリーを食で元気に!」  
「リーガーから学ぶ元気ごはん」  
講師:森裕子(名古屋グランパス 栄養アドバイザー)

6/19(日) 12:20~13:05  
食育セミナー  
イケア・ジャパン Presents  
「レイチェル・クーの  
サステナブルフードクッキング」  
「食を通じて家での暮らしをサステナブルに」  
出演:佐川季由(イケアジャパン カリトフードマネージャー)  
映像出演:レイチェル・クー(料理家・作家)

**シンポジウム**

6/18(土) 13:00~15:00  
「人口減少社会での持続可能な  
食と農をあいちから考える」  
基調講演:合瀬宏毅氏/ハネリス5名  
(「17」アグリフューチャーアワード(理事長))

6/19(日) 10:30~12:00  
「栄養と運動から導く  
「健康寿命トークセッション」」  
講演:下方浩史所長(名古屋学芸大学 健康栄養研究所)  
中田孝宏センター長(愛知医科大学 運動療育センター)

**スタンプラリー&ふるまいコーナー**

スタンプラリーに  
参加して素敵な景品を  
ゲットしよう!

各日参加先着  
1万名様

元気グルメふるまいコーナー  
あいちの食材で作った元気が出る一品を食べよう!

6/18 12:00~ 宛まんじゅう  
調理協力:あいち市海産物産部

6/19 12:00~ 五菜三飯汁  
調理協力:名古屋国際高等学校

14:00~ カラフルポタージュ  
レシピ監修:愛知県立健康科学館  
鈴木あすな氏

※各日はイメージです。 ※各日なくなり次第終了となります。

「チョコちゃんに叱られる!」©NHK

主催 農林水産省、愛知県、第17回食育推進全国大会愛知県実行委員会

後援 内閣府、消費者庁、文部科学省、厚生労働省、全国知事会、全国都道府県議会議長会、全国市長会、全国市議会議長会、全国町村会、全国町村議会議長会

お問合せ 第17回食育推進全国大会愛知県実行委員会事務局(愛知県農業水産局農政部 食育消費流通課内)  
TEL 052-954-6396 info@syokuikuaiichi17th.com

※プログラムの内容・順番・開催内容など、予告なく変更となる場合がございます。予めご了承ください。

詳細情報はQRコードより  
アクセスしてください。




## 生産者の「旗印」を作ることが、ブランドにつながる

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

農業や食、地域のデザインブランディングを手がける株式会社ファームステッド代表取締役の長岡淳一氏による講演を聞く機会がありましたので、概要を紹介します。

## 1 株式会社ファームステッドの概要

2013年に「地域にこそデザインを」をコンセプトに設立された同社は、農業をはじめとした1次産業や地域のブランディングが主で、これまで全国80か所の市町村で、150以上の農場等のデザインブランディングを手がけてきました。現場の写真を撮りながら依頼主とのコミュニケーションを図り、約1年かけてデザインを検討しブランディングを行うことで、各地域産品のおいしさや独自性をアピールし、ブランド価値を高めるのに一役買ってきました。



全国でのブランディング実績  
(株)ファームステッドパンフレットより)

## 2 ブランドとは何か

ブランドの語源は牛に押した焼印であり、他とどう違うかを分かりやすく伝えるものです。衣・食・住のすべてにブランドがあり、意識の有無にかかわらず、人は1日1000弱のブランドに触れながら生活しています。ブランドは無意識の中に大きな効果を発揮し、例えば食べ物や洗剤などを買ったとき、良いイメージのあるブランドや安心感のあるブランドは意識せずに選ばれ、買われます。

ブランド化できると、①ロイヤリティの高い顧客、すなわちファンを獲得できる、②ファンによって売上のブレがなくなり、競合他社に負けない、③価格競争に巻き込まれない、④売り場の獲得など、流通・小売からのサポートが厚くなる、⑤SNSで様々なコメントが交わされることで消費者とのコミュニケーションの効率が上がり、意図したことが伝わりやすいといった多くの利点があります。

また、ブランドにはロゴがつきものですが、ロゴをどう使うかで消費者への訴えかけが変わります。EC (Electronic Commerce : 電子商取引) が盛んになるほど伝え方が重要であり、どう伝えるかを企業戦略として考える必要があります。

## 3 企業戦略～CI (Corporate Identity) 戦略～

企業は、自らの独自性や事業の強みを再認識してデザインを統一することにより、その企業文化を内外に発信していきます。設計に基づくデザインは、作った後に、どう運

用するかが重要になります。

CI (Corporate Identity) は、MI (Mind Identity)、BI (Behavior Identity)、VI (Visual Identity) の3つで構成されます。MIとして企業理念の統一を図り、それにより経済規模や事業領域が定まってきます。BIでは目標を達成するために必要な具体的な行動、動きを統一します。VIは視覚の統一であり、ロゴマークやシンボルマークなどの図案を統一し、一目で分かるようにします。CIは統一感や一貫性が重要であるため、これら3つは一緒に考えねばなりません。

ロゴマークは、あらゆるところに使うようにします。そうすることで消費者の目に入りやすくなり、刷り込まれます。消費者が企業や商品に対して抱くイメージをお金で買うことはできません。イメージのいい会社というのは、CI戦略、CI計画が忠実に実行されている証しといえます。

過去を振り返ると、戦国時代には旗印がありました。旗印により自分の所属や行動の目的も明らかになりました。大事なものは旗印です。自分は何者なのか、何のために事業をやっているのか、これから何をしていきたいのか、何を伝えたいのか。CI戦略は生産者ならではのこだわりを明確にし、自己主張につながります。



統一されたパッケージデザインによる商品例

((株)ファームステッドHPより)

## 4 取組事例

### (1) 福島県の果樹農園

東日本大震災の影響で贈答用青果が売れなくなり、ロスが多く発生していた農園では、新たに干しぶどうの生産販売に取り組んだものの、あまり売れませんでした。「干しぶどう」の文字が大きく、農園名が小さく入ったラベルを貼った安っぽく見える袋での販売から、黒と金を基調とし、金文字で農園名を大きく打ち出した高級感溢れる紙箱での販売にしたところ売れ行きが改善し、ロスの発生がなくなりました。

### (2) 北海道の乳牛牧場

製造販売するアイスクリーム、チーズなどの商品パッケージは統一感のないものでしたが、包装資材がなくなるタイミングで徐々にデザインを統一していきました。「見たことある」感が大切であり、ブランド力が強化されました。

## 5 大事な5つのポイント

デザインブランディングにおいて大事な点は、次の5つです。①視覚的シンボルをきちんと作る。それにより消費者に思い出してもらおう。②一言で言える自分の強みを作る。そのためには絞り込みが必要となる。③決めたらブレない。それにより積み上げていく。④統一感と一貫性。⑤常に情報を発信する。諦めない。

これらを総合し、長く続けることがブランディング成功の秘訣です。

## 「いいともあいち運動」の取組について

食育消費流通課

## 1 いいともあいち運動とは

「いいともあいち運動」は、県民の皆さんに農林水産業の大切さを御理解いただき、「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって本県農林水産業を支えていこうという取組です。また、県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと食べていただきたい（利用していただきたい）という、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

## 2 いいともあいち運動の主な取組内容

## (1) 運動の輪を広げ、県産農林水産物の認知度を高める

## ア いいともあいちネットワーク等の拡大

- ・生産者団体を始めスーパー、飲食店といった流通関係者、消費者団体等のネットワーク会員あてに「いいともあいちだより」を配信
- ・県ホームページ「いいともあいち情報広場」やFacebook等で、会員の取組や新商品、店舗、イベント等の情報を広く紹介
- ・愛知県の農林水産業を応援していただける「いいともあいちサポーター」を募集し、メールマガジン「あいまる通信」を配信

## イ キャンペーン月間（11月）の取組の強化

- ・大手量販店における「いいともあいちフェア」の開催

## ウ 県産農林水産物を使った商品へのシンボルマークの表示

- ・運動の認知度向上のため、県産農林水産物及びその加工商品へのシンボルマーク「あいまる」の表示推進



シンボルマーク「あいまる」



いいともあいちフェアの様子

## (2) 県産農林水産物の利用拡大

## ア いいともあいち推進店の登録推進

- ・県産農林水産物や加工食品等の販売や利用に力を入れる販売店や飲食店を「いいともあいち推進店」として登録

## イ 「愛知のふるさと食品コンテスト」の開催

- ・県内で生産された農林水産物を主な原材料に用いて製品化された加工食品を対象にコンテストを開催



2021年度ふるさと食品コンテスト  
最優秀賞商品  
株式会社あつみ「鰻能」



### 3 いいともあいちネットワーク会員、推進店、サポーターの募集について

愛知県では、「いいともあいちネットワーク会員」、「いいともあいち推進店」、「いいともあいちサポーター」を随時募集しています。

詳細や申し込み方法等は、いいともあいち運動情報広場 (<https://www.pref.aichi.jp/nousei/iitomo/iitomoaichi/index.html>) に掲載しておりますので、ご確認ください。

#### (1) いいともあいちネットワーク会員

いいともあいち運動の趣旨に賛同いただける事業者・団体等(生産者、流通関係者、消費者団体等)を「いいともあいちネットワーク会員」として募集しています。

いいともあいち運動の趣旨にご賛同いただける事業者・団体等であれば、どなたでも無料で会員登録できます。



(ネットワーク会員)

#### (2) いいともあいち推進店

愛知県産の農林水産物やその加工品を、積極的に販売している販売店や食材として利用している飲食店を「いいともあいち推進店」として募集しています。

ネットワーク会員でない方は推進店への申請に併せて、ネットワーク会員の登録が必要です。



(推進店)

#### (3) いいともあいちサポーター

愛知県の産品を食べて、使って、愛知県の農林水産物を応援していただける方々を「いいともあいちサポーター」として募集しています。

サポーターには、県産農林水産物に関するイベントや、お得な情報をメールマガジンで配信します。登録は無料で、お名前、住所等も不要です。



(サポーター)

### 4 2022年度を取組方向

SDGs や環境負荷低減の達成に対する社会的関心が高まる中、その一手法として「地産地消」の取組についても県民の関心が高まりつつあることも踏まえ、特に県内に向けて「地産地消」の実践を促すための取組を一層推進します。

また、首都圏において知事や県内農業団体の代表者によるトップセールスやフラワーバレンタイン運動の啓発を実施するほか、愛知県茶会の開催などを通じて、あいちの農林水産物のイメージアップを図ります。

加えて、本県が開発したかんきつやなし、いちごの新品種、名古屋コーチン、みかわ牛、トラフグなどのPRを行い、これらのブランド力強化を図ります。

なお、これらの取組は、庁内関係各課や関係機関とともに実施することで、より一層の波及効果、相乗効果が得られるよう進めていきます。

## 花き消費回復対策事業について

園芸農産課

愛知県は1962年以降59年連続して日本一の花き産出額を誇り、多様で高品質な花きを生産する「花の王国」です。

新型コロナウイルス感染症拡大によるイベント等の自粛の影響を受け、需要が落ち込んだ花きの消費を回復し、生産から販売の体制を維持するため、2021年度に花き消費回復対策事業を実施しました。

### 1 公共施設等における花きの活用

公共施設等に本県産花きを用いたディスプレイを設置し、「花の王国あいち」の切花や鉢物をPRしました。

2021年9月21日の県庁舎での展示を皮切りに、地方機関や、県内市町村の公共施設等で合計189回の展示を実施しました。

愛知県が産出額上位を占める、キク、バラ、カーネーション等を各月のメイン花材として用いるとともに、本県育成品種であるかがり弁ギクや、白色の輪菊をカラフルに染めたカラーリングマムなどを用いて、本県産花きをPRしました。



展示の様子

### 2 企業等における新たな花きの活用スタイルの創出

企業等における新たな生活様式に対応した冠婚葬祭シーン等での装飾や贈答等、花きの新たな活用方法を提案し、本県産の業務用花きの需要を喚起するための展示や実証として、花き産地ツアー（フラワーバス）やホテルのコンセプトルームにおける活用等に取り組みました。

花き産地ツアーでは、本県産花きで装飾したフラワーバスで、飛島村のポインセチア農家に立ち寄り、真っ赤に染まったポインセチアの生産ほ場を見学いただきました。このツアーでは、観光資源としての花き生産ほ場の活用を試みました。

また、ホテルのコンセプトルームとして「美女と野獣ルーム」に合わせた花の装飾や約1300本の花に囲まれた「The Power of Flower フラワールームプラン」の販売を行い、ホテルにおける新しい花きの活用を行いました。



花き産地ツアーのフラワーバス



花き産地ツアー視察ほ場



ホテルのコンセプトルーム

## 愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ± 1 % 台以下  
 わずか : ± 2 % 台以内  
 や や : ± 3 ~ 5 % 台  
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台  
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

### ○ 名古屋中央卸売市場（品目：みつば）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)
		うち愛知産		愛知産	
2021年実績	604	559 (93%)	483	483	静岡 ( 7%) 福岡 (0.2%) 大阪 (0.2%)
2022年見通し	600	—	600	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>県内の海部及び名古屋地域からの入荷が中心となる。4月下旬の生育状況は順調で入荷は安定。愛知の5月の入荷量は、平年より多かった前年を大幅に下回る見込み。気温が高くなると、品質が低下する恐れ。5月は大型連休があるが、入荷が豊富で景気も悪く、行楽需要を見込めない。入荷量は前年並で、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>			<p>現時点で品質に問題はないが、今後夏場に入ると変色や腐敗などが発生しやすい時期となる。輸送上の問題もあると思うが、品質管理に引き続き留意願いたい。安値が続く中、資材費も値上がっており、十分努力していただいている。卸売価格の底上げに努めたい。</p>		

### ○ 東京都中央卸売市場（品目：ペコロス）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)
		うち愛知産		愛知産	
2021年実績	133	16 (12%)	652	812	北海道 (81%) ニュージーランド (3%) オーストラリア (2%)
2022年見通し	130	—	655	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>2020年からの輸入量減少に加え、2021年は北海道の不作により後半の入荷量が減少した。2022年は例年より入荷量を減らして単価高で始まっており、北海道は例年より早く出荷を終了した。5～8月は愛知が主力となるが、例年入荷量が少ない時期であることもあり、堅調な販売が続くと見込まれる。入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年並となる見込み。</p>			<p>ペコロスの需要は多くが業務向けであり、北海道からの入荷がなくなる5～8月の愛知産に対する期待は大きい。愛知産は以前からクオリティが高く、今後も品質を維持してもらいたい。また、愛知は夏場を担うほぼ唯一の国内産地であり、安定した入荷が求められる。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の5月の見通し

名古屋市中央卸売市場

4月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	前年主要産地 (%)			
				上旬	中旬	下旬	
野菜計	2017年	35,201	227	235	213	230	愛知 28%
	2018年	35,247	215	215	207	218	茨城 9%
	2019年	33,516	215	209	214	215	長野 7%
	2020年	34,683	230	246	217	224	徳島 7%
	2021年	35,320	232	226	225	234	熊本 7%
	5ヵ年平均	34,793	224	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	33,200	254	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知を中心に茨城などから入荷する。各品目ともに生育は概ね順調で、平年並の入荷を見込む。葉菜類は後進傾向にあり、中旬以降にピークとなる品目が多い。大半の品目で入荷量は前年を下回る見込み。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
だいこん	2017年	1,924	97	106	99	91	愛知 60%
	2018年	1,724	80	67	88	99	千葉 25%
	2019年	1,765	87	72	103	94	青森 7%
	2020年	1,479	108	112	91	124	鹿児島 6%
	2021年	1,770	83	86	81	87	東京 1%
	5ヵ年平均	1,732	91	88	93	98	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,650	90	85	90	95	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知を中心に千葉などから入荷する。各産地ともに生育良好で、上旬にピークを迎え、下旬に向けて入荷減の見込み。青森からの入荷が例年よりやや遅く、6月にずれ込む見込み。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
にんじん	2017年	2,369	133	141	140	118	徳島 74%
	2018年	2,769	117	165	119	89	岐阜 19%
	2019年	2,409	111	129	112	101	兵庫 4%
	2020年	2,450	133	137	136	127	
	2021年	2,592	128	160	126	107	
	5ヵ年平均	2,518	124	147	126	108	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	2,500	123	130	130	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>徳島を中心に岐阜、兵庫から入荷する。各産地生育は良好で、徳島は上旬から入荷減の見込み。後続産地の岐阜、兵庫は、中旬からの入荷が予定され、順調な産地推移となる見込み。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

4月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2017年	144,436	238	245	234	235	千葉 19%
	2018年	142,138	230	227	234	231	茨城 17%
	2019年	136,302	223	217	229	224	群馬 5%
	2020年	127,259	246	260	227	250	熊本 5%
	2021年	122,610	251	253	243	256	愛知 5%
	5ヵ年平均	134,549	237	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	135,000	235	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉など関東産地からの入荷が中心となり、土物類は西南暖地からの入荷が本格化する。低温による生育遅れは気温高と降雨で概ね解消。4月後半に続いた曇雨天のため品目により不安定な出方が懸念される。入荷量は少なかった前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
だいこん	2017年	10,434	91	107	89	78	千葉 73%
	2018年	8,980	85	69	88	101	青森 11%
	2019年	9,253	80	64	102	78	茨城 10%
	2020年	7,872	106	111	84	122	栃木 2%
	2021年	7,895	82	89	72	83	福岡 1%
	5ヵ年平均	8,887	89	88	88	91	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	7,800	85	90	85	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉を中心に、青森、茨城などからの入荷となる。主力千葉は3月の気温高により産地により前進傾向。抽苔の懸念があり入荷量への影響が心配されるも、量に不足はない見込みで、相場は軟調となるか。入荷量は前年並となり、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					
にんじん	2017年	9,126	141	146	146	131	徳島 53%
	2018年	10,370	132	173	130	97	千葉 35%
	2019年	7,965	124	132	119	123	茨城 3%
	2020年	7,323	143	145	141	143	埼玉 2%
	2021年	7,697	143	171	139	124	北海道 2%
	5ヵ年平均	8,496	136	154	135	122	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	7,800	125	130	125	120	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>徳島、千葉からの入荷が中心となる。遅れが見られた主力徳島は生育が進み、ピークに入って安定した入荷を見込む。千葉は生育遅れから回復し、例年同様にM・L中心に量を増やしていく見込み。入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

4月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	2017年	1,572	84	114	70	70	茨城 71% 愛知 15% 長野 13%
	2018年	1,980	71	65	82	71	
	2019年	2,079	66	67	64	69	
	2020年	2,040	126	177	95	109	
	2021年	2,077	61	59	55	68	
	5ヵ年平均	1,950	81	95	73	78	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,850	80	80	80	80	
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量			単価 円/Kg
	茨城を中心に愛知、長野から入荷する。茨城は生育良好で、下旬から入荷減の見込み。愛知も生育良好。長野は生育がやや遅れぎみで、下旬からの入荷を見込む。気温が上がり、5月も販売苦戦となるか。入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。						
キヤベツ	2017年	3,380	103	130	92	97	愛知 75% 茨城 18% 兵庫 3% 宮崎 1% 静岡 1%
	2018年	3,729	75	80	74	77	
	2019年	3,089	107	90	131	103	
	2020年	3,506	127	149	127	108	
	2021年	3,994	67	68	64	75	
	5ヵ年平均	3,540	94	102	96	91	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	3,500	100	100	100	100	
ほうれんそう	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量			単価 円/Kg
	愛知を中心に茨城などから入荷する。両産地ともに生育期の低温、干ばつにより、生育がやや遅れぎみで、中旬から入荷増の見込み。愛知は安定的な入荷見込み。入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。						
ほうれん	2017年	300	515	528	469	573	岐阜 67% 茨城 19% 静岡 6% 愛知 5% 長野 3%
	2018年	277	561	510	579	590	
	2019年	316	453	379	511	468	
	2020年	351	513	547	483	511	
	2021年	401	467	489	446	472	
	5ヵ年平均	329	499	491	493	518	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	350	500	500	500	500	
ほうれんそう	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量			単価 円/Kg
	岐阜を中心に茨城、静岡などから入荷する。岐阜は例年よりも生育が遅れ、5月中旬にピークを迎える見込み。天候によるが、平年並の数量を見込む。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。						

東京都中央卸売市場

4月30日 現在

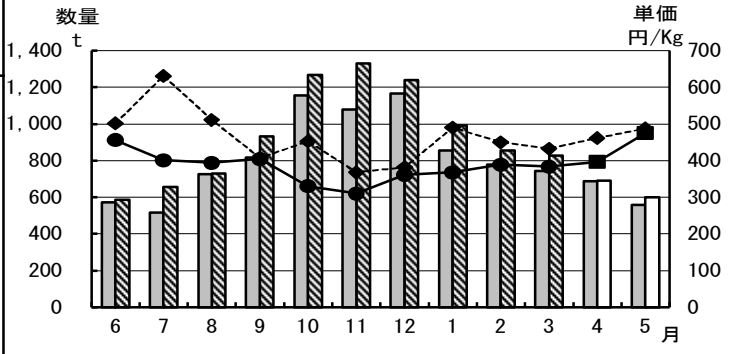
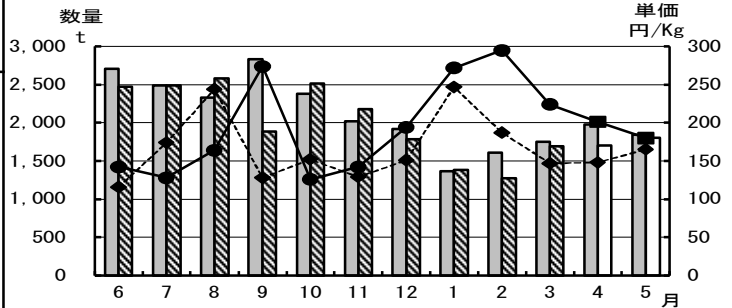
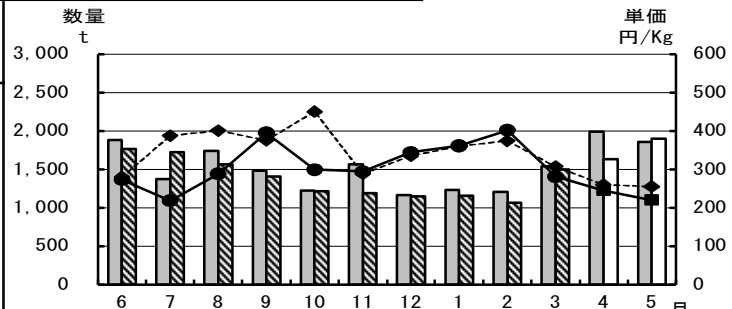
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	上旬			中旬			下旬			前年主要産地 (%)
				上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
ほうき	2017年	7,005	64	90	60	43	茨城 94% 長野 5% 群馬 1%						
	2018年	6,982	52	46	66	44							
	2019年	6,570	48	51	47	46							
	2020年	6,787	105	168	71	86							
	2021年	6,583	47	49	40	51							
	5ヵ年平均	6,785	63	81	57	54	前年及び本年の 入荷量・価格の動き						
	2022年見通し	6,300	55	45	60	60							
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し				<p>数量 (t) と 単価 (円/kg) の推移。数量は棒グラフ、単価は折線グラフで示されています。数量は6月～10月にかけて増加傾向にあり、11月～12月は減少傾向にあり、1月～5月は再び増加傾向にあります。単価は6月～8月にかけて上昇傾向にあり、9月～12月は減少傾向にあり、1月～5月は再び増加傾向にあります。</p>								
	茨城からの入荷がほとんどを占める。低温及び乾燥による生育不良から回復し生育順調。ピークを過ぎて下旬に量を減らすものの、後続の長野や群馬が出始め、出回りに不足はないと見込まれる。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。												
	キャベツ	2017年	19,052	90	97	87	87	千葉 45% 愛知 18% 神奈川 17% 茨城 16% 静岡 1%					
2018年		19,976	63	60	65	65							
2019年		17,175	96	74	121	96							
2020年		16,771	129	156	122	112							
2021年		18,127	64	72	60	60							
5ヵ年平均		18,220	87	90	90	83	前年及び本年の 入荷量・価格の動き						
2022年見通し		19,000	75	80	80	65							
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し				<p>数量 (t) と 単価 (円/kg) の推移。数量は棒グラフ、単価は折線グラフで示されています。数量は6月～10月にかけて増加傾向にあり、11月～12月は減少傾向にあり、1月～5月は再び増加傾向にあります。単価は6月～8月にかけて上昇傾向にあり、9月～12月は減少傾向にあり、1月～5月は再び増加傾向にあります。</p>									
千葉を中心に、愛知、神奈川、茨城などからの入荷となる。千葉は生育遅れから回復し、潤沢な入荷が続く。神奈川、愛知も低温による生育遅れは解消か。茨城が始まり、出回りは潤沢で相場展開は厳しいか。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。													
ほうれんそう		2017年	1,512	436	459	401	455	群馬 39% 茨城 36% 栃木 7% 埼玉 6% 岐阜 4%					
	2018年	1,412	446	421	480	442							
	2019年	1,481	370	340	399	370							
	2020年	1,526	427	462	379	440							
	2021年	1,601	372	385	347	383							
	5ヵ年平均	1,506	409	413	399	418	前年及び本年の 入荷量・価格の動き						
	2022年見通し	1,600	400	440	380	380							
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し				<p>数量 (t) と 単価 (円/kg) の推移。数量は棒グラフ、単価は折線グラフで示されています。数量は6月～10月にかけて増加傾向にあり、11月～12月は減少傾向にあり、1月～5月は再び増加傾向にあります。単価は6月～8月にかけて上昇傾向にあり、9月～12月は減少傾向にあり、1月～5月は再び増加傾向にあります。</p>								
	群馬、茨城など関東産地を中心に岐阜などからも入荷する。各産地とも生育順調。一部産地では気温差が大きいために生育のばらつきが大きいものの、総じて潤沢な入荷が見込まれる。 入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり上回る見込み。												

名古屋市中央卸売市場

4月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

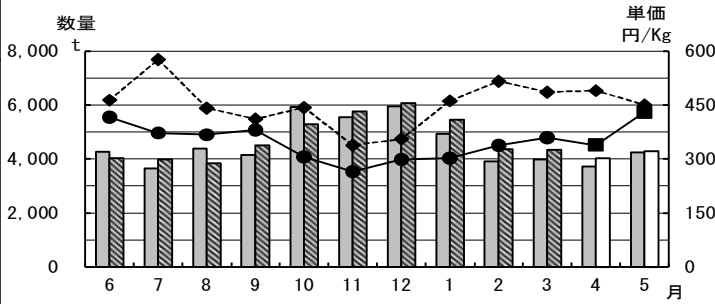
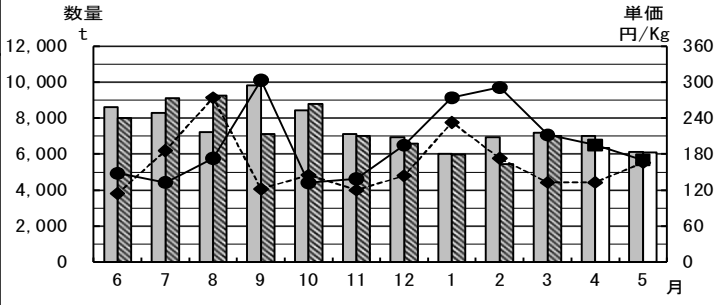
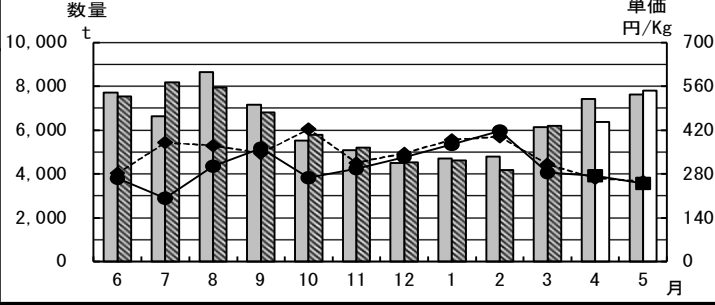
品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2017年	602	449	439	459	444	大分 28%
	2018年	573	497	456	547	499	愛知 21%
	2019年	604	416	439	402	417	静岡 8%
	2020年	606	463	475	433	484	長崎 7%
	2021年	557	487	500	486	478	茨城 7%
	5ヵ年平均	589	462	461	464	464	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	600	475	480	480	460	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>大分、愛知などから入荷する。愛知は越津ねぎが終了し、新ねぎは平年並の入荷となる見込み。大分が中心となる白ねぎは、鳥取、静岡は出荷終盤となり、平年よりも少なめの入荷が予想される。</p> <p>入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>							
し	2017年	1,890	161	202	153	137	長野 71%
	2018年	1,841	166	153	145	200	兵庫 11%
	2019年	1,689	188	193	201	174	茨城 8%
	2020年	1,796	172	218	153	151	山梨 6%
	2021年	1,846	165	152	158	189	群馬 2%
	5ヵ年平均	1,813	170	183	161	170	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,800	180	160	200	180	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>長野を中心に兵庫、茨城から入荷する。各産地ともに前進傾向にあり、茨城と兵庫は上旬頃に入荷が終了する見込み。後続産地の長野は、例年に比べやや遅れぎみの生育で、2L・Lを中心の入荷を見込む。</p> <p>入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>							
きゅう	2017年	1,928	232	245	225	227	愛知 38%
	2018年	2,102	246	206	296	249	宮崎 16%
	2019年	2,108	215	205	223	216	群馬 15%
	2020年	2,162	238	212	214	285	高知 9%
	2021年	1,852	255	208	219	378	埼玉 8%
	5ヵ年平均	2,030	237	215	236	269	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	1,900	220	230	220	210	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>愛知を中心に宮崎、群馬などから入荷する。愛知や高知などの冬春作に加え、群馬や長野などの春作が出揃い、安定した入荷を見込む。各産地ともに生育良好で、GWに向けてピークを迎える。</p> <p>入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							



東京都中央卸売市場

4月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2017年	4, 230	426	420	435	420	茨城 51%
	2018年	4, 102	461	467	527	404	千葉 22%
	2019年	4, 234	406	431	375	412	栃木 6%
	2020年	4, 115	448	430	424	481	埼玉 4%
	2021年	4, 244	451	499	438	424	福岡 4%
	5ヵ年平均	4, 185	438	449	440	428	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	4, 300	430	450	430	410	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>茨城、千葉など関東産地からの入荷が中心となる。各産地とも生育はおおむね良好。一部では気温高から前進傾向となっている。抽苔は少なめで、太物比率が高まり、潤沢な出回りが見込まれる。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。</p>							
し	2017年	8, 298	142	182	131	119	長野 44%
	2018年	7, 863	152	130	135	191	群馬 29%
	2019年	7, 602	160	163	175	147	茨城 19%
	2020年	6, 679	156	200	131	141	兵庫 3%
	2021年	6, 112	166	153	153	192	栃木 1%
	5ヵ年平均	7, 311	154	165	145	157	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	6, 100	170	160	165	185	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>長野、群馬、茨城からの入荷が中心となる。主力の長野は生育順調で中旬から量がまとまる。群馬の生育遅れは解消傾向で、量を増やしていく。終盤の茨城は生育順調で大玉傾向。出回りに不足はない見込み。 入荷量は少なかった前年並となり、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>							
きゅうり	2017年	9, 282	233	243	225	231	埼玉 26%
	2018年	9, 219	258	215	318	258	群馬 26%
	2019年	8, 460	215	209	231	204	宮崎 11%
	2020年	8, 229	246	312	212	204	千葉 10%
	2021年	7, 633	257	213	218	353	茨城 10%
	5ヵ年平均	8, 565	242	238	242	248	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2022年見通し	7, 800	250	220	250	280	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>埼玉、群馬など関東産地や宮崎などからの入荷が中心となる。各産地とも生育はおおむね順調。一部産地での低温による生育停滞は回復傾向。埼玉や群馬はピークとなり、出回り量は十分と見込まれる。 入荷量は少なかった前年をわずかに上回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

4月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な	2017年	1,115	357	357	351	熊本 35%	
	2018年	1,050	342	347	351	愛知 31%	
	2019年	1,165	315	317	306	宮崎 30%	
	2020年	1,149	331	328	312	高知 4%	
	2021年	1,035	347	351	355		
な	5ヵ年平均	1,103	338	349	337	334	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
な	2022年見通し	1,100	320	320	310		
す	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>愛知、熊本を中心に入荷する。両産地ともに作柄良好で、順調な入荷を見込む。熊本は気温も安定し、玉流れは2L～Lが中心。順調な入荷となる見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>						
ト	2017年	1,913	254	254	258	熊本 55%	
	2018年	2,177	235	244	202	愛知 21%	
	2019年	1,980	210	213	204	三重 13%	
	2020年	1,884	228	212	205	岐阜 11%	
	2021年	2,013	250	275	255		
ト	5ヵ年平均	1,993	235	258	236	219	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
ト	2022年見通し	1,900	240	240	240		
マ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>熊本、愛知を中心に三重、岐阜から入荷する。各産地ともに5月上旬にピークとなるが、入荷量は平年並の見込み。平年と比べ大玉階級は少なめの入荷となる見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>						
ニ	2017年	694	529	499	537	561	熊本 63%
	2018年	777	501	529	500	475	愛知 28%
	2019年	832	439	461	437	418	和歌山 5%
	2020年	842	423	500	407	379	宮崎 3%
	2021年	805	507	523	504	495	
ニ	5ヵ年平均	790	477	502	474	462	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
ニ	2022年見通し	800	450	490	450	420	
ト	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>熊本、愛知を中心に入荷する。今年は5月上旬に入荷がピークとなり、潤沢な入荷となる見込み。下旬から入荷量が減少し、品質が低下するため、価格も低下する見込み。 入荷量は前年並、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>						

東京都中央卸売市場

4月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な	2017年	4, 748	399	435	400	370	高知 43%
	2018年	4, 532	399	398	416	388	福岡 16%
	2019年	4, 813	341	347	340	336	群馬 14%
	2020年	4, 606	374	406	364	357	熊本 11%
	2021年	4, 179	393	398	366	415	栃木 4%
5ヵ年平均	4, 576	381	397	377	373	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2022年見通し	4, 400	375	370	380	375		
す	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>高知を中心に、福岡、群馬、熊本などからの入荷となる。各産地とも生育は概ね順調で肥大も良好。一部で弱まった樹勢は回復を見込む。開花や着果は順調で、安定した入荷が続くと見込まれる。</p> <p>入荷量は少なかった前年をやや上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>						
ト	2017年	10, 263	280	278	282	281	熊本 30%
	2018年	10, 990	270	303	278	234	栃木 23%
	2019年	10, 019	246	247	250	242	愛知 11%
	2020年	9, 159	268	336	234	247	茨城 7%
	2021年	9, 097	283	311	288	255	千葉 7%
5ヵ年平均	9, 906	269	294	267	252	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2022年見通し	9, 100	280	330	270	240		
マ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>熊本を中心に、栃木など関東産地、愛知からの入荷となる。各産地の生育は順調。低温により鈍かった出方は気温上昇で回復。一部産地での小玉傾向は解消を見込む。不足感のない出回りで相場は軟化か。</p> <p>入荷量は少なかった前年並となり、価格も前年並となる見込み。</p>						
ミニ	2017年	2, 434	495	447	502	536	熊本 45%
	2018年	2, 742	470	493	464	452	愛知 19%
	2019年	2, 854	407	439	393	392	千葉 11%
	2020年	2, 769	397	488	375	344	静岡 7%
	2021年	2, 733	474	485	469	470	宮崎 6%
5ヵ年平均	2, 706	447	471	439	436	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2022年見通し	2, 700	450	490	430	430		
ト	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>熊本、愛知、千葉などからの入荷となる。各産地とも生育は概ね順調。開花や着果に大きな問題はなく安定した入荷を見込む。主要産地はピークを迎えて増量し、潤沢な出回りが見込まれる。</p> <p>入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。</p>						

名古屋市中央卸売市場

4月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2017年	926	311	386	263	鹿児島	36%
	2018年	850	276	326	269	茨城	32%
	2019年	733	244	271	284	宮崎	20%
	2020年	804	428	566	345	高知	11%
	2021年	781	342	392	327		
	5ヵ年平均	819	321	389	296	前年及び本年の入荷量・価格の動き	
	2022年見通し	800	340	400	320		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>鹿児島、宮崎、茨城を中心に入荷する。各産地ともに生育順調で、安定した入荷を見込む。ピークはGW明け以降となるか。入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年並となる見込み。</p>					
ばれいしょ	2017年	3,401	166	193	156	長崎	54%
	2018年	2,859	127	147	108	鹿児島	34%
	2019年	3,274	133	145	122	静岡	6%
	2020年	3,003	223	189	257	北海道	4%
	2021年	3,052	282	292	264	熊本	2%
	5ヵ年平均	3,118	186	193	181	前年及び本年の入荷量・価格の動き	
	2022年見通し	3,100	190	220	150		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長崎、鹿児島を中心に静岡などから入荷する。長崎は生育が若干遅れぎみで、連休明けから入荷見込み。鹿児島は上旬に、入荷がピークとなる見込み。静岡は中旬からの入荷見込み。入荷量は前年並で、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
たまねぎ	2017年	6,404	81	87	87	愛知	58%
	2018年	5,465	80	92	80	北海道	32%
	2019年	4,920	78	87	74	兵庫	8%
	2020年	5,792	53	59	55	熊本	2%
	2021年	5,579	80	76	85		
	5ヵ年平均	5,632	74	80	76	前年及び本年の入荷量・価格の動き	
	2022年見通し	4,800	190	180	200		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知、北海道を中心に兵庫などから入荷する。愛知は生育順調で、中旬頃まで2Lを中心に順調な入荷を見込む。北海道は終盤。兵庫は生育順調で、Lを中心にGW明けからの入荷を見込む。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

4月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2017年	2,881	361	434	348	313	茨城 69%
	2018年	2,721	328	357	321	307	宮崎 17%
	2019年	2,802	318	332	290	332	高知 9%
	2020年	2,802	486	607	424	433	鹿児島 5%
	2021年	2,646	396	432	382	375	
	5ヵ年平均	2,770	378	433	353	352	
	2022年見通し	2,700	380	460	350	330	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城を中心に宮崎など西南暖地からの入荷となる。茨城は曇雨天の影響で生育不良がみられたものの気温上昇により解消。西南暖地の各産地は生育順調。総じて潤沢な入荷が見込まれる。</p> <p>入荷量は少なかった前年をわずかに上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
ばれいしょ	2017年	10,757	165	182	160	155	長崎 50%
	2018年	9,465	118	130	123	104	鹿児島 28%
	2019年	9,658	132	143	132	122	北海道 9%
	2020年	8,375	232	187	228	272	静岡 6%
	2021年	8,754	287	300	292	270	熊本 5%
	5ヵ年平均	9,402	183	186	183	180	
	2022年見通し	9,300	200	210	200	190	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長崎を中心に、鹿児島などからの入荷となる。長崎の低温と乾燥による生育遅れは回復し、平年並に量を増やしていく見込み。終盤の鹿児島は降雨で出荷が遅れた分がまとまり、出回りは潤沢な見込み。</p> <p>入荷量は前年をかなり上回り、価格は高騰した前年を大幅に下回る見込み。</p>					
たまねぎ	2017年	14,172	104	103	103	107	佐賀 40%
	2018年	12,933	90	93	92	86	北海道 34%
	2019年	14,481	87	98	85	80	兵庫 11%
	2020年	13,348	47	42	40	60	千葉 4%
	2021年	9,973	101	94	103	107	熊本 2%
	5ヵ年平均	12,981	85	86	84	87	
	2022年見通し	9,700	230	270	220	200	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>佐賀、北海道、兵庫からの入荷が中心となる。佐賀は低温と乾燥で生育が遅れ、L中心の見込み。在庫の北海道は残量少ない。後続の兵庫も小玉傾向で中旬から量を増やすも、全体量少なく高値維持か。</p> <p>入荷量は少なかった前年をわずかに下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

4月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2017年	7,203	409	427	405	415	熊本 27%
	2018年	7,100	417	442	429	405	フィリピン 20%
	2019年	6,419	426	450	427	424	青森 17%
	2020年	6,126	441	462	436	443	愛知 12%
	2021年	6,531	428	433	450	441	ニュージーランド 7%
	5ヵ年平均	6,676	424	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2022年見通し	6,300	440	—	—	—		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	すいか、メロン、りんご、いちごを中心に入荷する。りんごは前年と比べて在庫量が少なく、価格は前年を大幅に上回る見込み。いちごは天候によっては、九州地方の切り上りが早まる見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をわずかに上回る見込み。						
その他メロン (アールスメロン以外)	2017年	758	448	487	453	436	熊本 76%
	2018年	837	435	529	450	378	愛知 10%
	2019年	829	446	537	447	396	茨城 9%
	2020年	835	429	488	445	388	鹿児島 2%
	2021年	725	484	531	511	429	長崎 1%
	5ヵ年平均	797	447	514	460	404	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2022年見通し	700	450	450	450	450		
すいか	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	熊本を中心に愛知、茨城、鹿児島などから入荷する。全国的に作付面積は減少し、入荷量も減少している。愛知も作付面積は減少しているが、夏果実の入荷が始まるため、価格は多少落ち着く見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。						
さいか	2017年	1,390	299	319	307	281	熊本 74%
	2018年	1,576	272	323	289	234	愛知 24%
	2019年	1,518	265	293	269	246	沖縄 1%
	2020年	1,431	264	241	270	266	
	2021年	1,084	271	304	306	258	
	5ヵ年平均	1,400	274	296	287	256	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2022年見通し	1,290	260	270	260	250		
さいか	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	熊本を中心に愛知などからも入荷する。愛知は5月からの入荷を見込む。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年をやや下回る見込み。						

東京都中央卸売市場

4月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2017年	28,729	418	438	418	399	熊本 23%
	2018年	27,416	447	481	443	420	青森 17%
	2019年	26,366	438	468	444	410	茨城 14%
	2020年	23,708	474	491	476	457	フィリピン 8%
	2021年	25,554	454	479	463	425	千葉 7%
	5ヵ年平均	26,355	445	—	—	—	
2022年見通し	26,000	450	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	熊本、茨城などからの入荷となり、すいか、メロンを中心に入荷する。4月前半は好天に恵まれた一方、後半は曇雨天が続き、入荷量は5月にまとまる見込み。 入荷量、価格ともに前年並となる見込み。						
その他メロン（アールスメロン以外）	2017年	2,868	500	539	534	479	茨城 71%
	2018年	3,314	458	562	479	413	熊本 24%
	2019年	2,846	465	542	467	425	愛知 1%
	2020年	2,779	443	478	443	413	千葉 1%
	2021年	3,229	481	531	484	414	
	5ヵ年平均	3,007	470	530	469	416	
2022年見通し	3,200	480	530	485	415	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	茨城、熊本を中心に、品種はアンデスやクインシーなどが入荷する。生育期の低温の影響により、生育の遅れや小玉傾向の見込み。 入荷量、価格ともに前年並となる見込み。						
すいか	2017年	6,272	297	313	305	284	熊本 58%
	2018年	7,402	287	327	298	248	千葉 24%
	2019年	6,806	281	316	286	262	茨城 13%
	2020年	5,942	279	259	289	288	群馬 4%
	2021年	6,860	297	319	314	270	
	5ヵ年平均	6,656	288	308	299	269	
2022年見通し	6,800	280	300	300	270	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	熊本を中心に千葉、茨城などからも入荷する。大玉・小玉すいかは好天により出荷は順調。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。						

## 切花・鉢花の5月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 5月1日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪ぎ	実績	2017年	1,753	43	
		2018年	1,724	32	
		2019年	1,730	35	
		2020年	1,123	40	
		2021年	1,383	26	
	5カ年平均		1,543	35	
	2022年見通し		1,400	35	
概要	愛知中心の入荷。上旬は母の日参りもあり、動きは良さそう。中旬以降は夏菊の出荷も始まり、夏秋品種の出荷が落ちつくまでは苦しい展開となりそう。				
小ぎ	実績	2017年	1,080	30	
		2018年	978	22	
		2019年	1,050	26	
		2020年	997	26	
		2021年	836	20	
	5カ年平均		988	25	
	2022年見通し		850	25	
概要	上旬は沖縄中心の入荷。中旬以降は夏秋品種に代わってくる。愛知県産も少しづつ出荷が増えてくるが、中旬以降の入荷量は少なくなりそうである。				
カーネーション	実績	2017年	1,888	46	
		2018年	1,610	43	
		2019年	1,600	43	
		2020年	1,410	47	
		2021年	1,443	44	
	5カ年平均		1,590	45	
	2022年見通し		1,500	50	
概要	愛知中心の入荷。母の日商戦の入荷は国産は例年並みだが、対照的に輸入物は輸送費の値上げ、為替の関係、海外の買い付けにより委託品の入荷が不安定の見込み。				
かすみ	実績	2017年	241	68	
		2018年	220	64	
		2019年	230	65	
		2020年	178	59	
		2021年	183	81	
	5カ年平均		210	67	
	2022年見通し		200	80	
概要	高知、和歌山、熊本から入荷。気温が高めに推移したため、4月下旬から5月上旬については出荷は多め。母の日需要期も上位等級の入荷は多くなりそう。量販中心に枝カスミの注文は多く、下位等級は品薄で推移。				



単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	2017年	342	158	
		2018年	283	143	
		2019年	300	140	
		2020年	266	114	
		2021年	250	148	
	5カ年平均		288	141	
	2022年見通し		260	145	
概要	高知、宮崎、埼玉、新潟からの入荷。母の日用に作付けをしている産地もあるが、中旬以降に出荷量は伸びてくる見通し。				
洋らん	実績	2017年	417	77	
		2018年	329	80	
		2019年	350	80	
		2020年	212	92	
		2021年	272	86	
	5カ年平均		316	82	
	2022年見通し		270	85	
概要	愛知、鹿児島、静岡、徳島等の国産品並びに輸入品が入荷する。胡蝶蘭の輸入物は航空便から船便に切替が進めば、ゴールデンウィーク過ぎから入荷増となる見込み。カトレアは近郊産地から継続して入荷し、数量は横ばいから若干の減少の見通し。オンジウムは入荷少ない。便の確保が難しく、船便の延着により入荷がない日が発生する可能性がある。デンファレは航空便の料金がさらに上昇し、委託品に回る量は少なく、注文品中心の入荷となる。				
ばら	実績	2017年	918	74	
		2018年	990	72	
		2019年	960	72	
		2020年	616	69	
		2021年	740	78	
	5カ年平均		845	73	
	2022年見通し		750	75	
概要	愛知、岐阜、三重中心に入荷。4月に前倒し出荷となった産地が多く、母の日前に入荷量はあまり多くない。母の日明けもローズの日に向け、堅調に推移しそう。				
枝も	実績	2017年	1,618	48	
		2018年	1,309	47	
		2019年	1,400	47	
		2020年	924	53	
		2021年	1,097	56	
	5カ年平均		1,270	50	
	2022年見通し		1,100	55	
概要	母の日に向けて上旬は非常に引合いが強い。その分、母の日明けの反動が気になり。ドウダンなどの需要は高くなるが、供給が追い付かないため、高値安定の見込み。遅れ気味であった花ショウブはほぼ需要期に間に合いそう。				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
カラ	実績	2017年	34,378	489	
		2018年	18,365	596	
		2019年	21,489	720	
		2020年	20,587	648	
		2021年	20,402	813	
	5カ年平均	23,044	635		
	2022年見通し	20,000	830		
概要	<p>入荷量は前年より減少か。5号鉢を中心に全国的に減少傾向にある。母の日需要が高く、5月初旬が出荷のピークを迎え、相場も高値となる。母の日は入荷は次第に減少していき、相場は徐々に低調する見込み。昨年同様、発色の良いピンク・黄色の引き合いが強い。前年5月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位長野（47.1%）、2位新潟（12.8%）、3位埼玉（10.3%）となっている。</p>				
ファレノ	実績	2017年	64,213	2,280	
		2018年	49,222	2,330	
		2019年	48,013	2,448	
		2020年	28,625	2,364	
		2021年	28,365	3,412	
	5カ年平均	43,688	2,486		
	2022年見通し	28,000	3,454		
概要	<p>入荷量は前年並か。前年は販売単価等が安定した為、同量の生産量になる見込み。コロナの影響やウクライナの戦争により資材や輸入経費が高騰の為、生産者からの出荷単価が上がる傾向である。前年5月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（55.5%）、2位熊本（7.5%）、3位宮崎（6.8%）となっている。</p>				
バラ及びミニバラ	実績	2017年	104,123	338	
		2018年	78,433	324	
		2019年	75,290	312	
		2020年	70,193	265	
		2021年	67,313	302	
	5カ年平均	79,070	311		
	2022年見通し	62,000	327		
概要	<p>入荷量は前年より減少か。コロナ禍による人材不足等により生産に営業が出ている。暦の関係で母の日が速く、需要は一周目に集中する。例年通り5号鉢までの小鉢中心の動きになる。温度も上がってくる為、咲き前に注意頂きつつ水管理にも注意。前年5月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位岐阜（48.7%）、2位愛知（41.4%）、3位千葉（3.1%）となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ハイ ド ラ ン ジ ア	実 績	2017年	3 5 3, 9 2 1	8 9 0	
		2018年	2 8 4, 9 9 3	9 2 1	
		2019年	2 8 0, 0 5 9	8 7 2	
		2020年	2 3 1, 3 1 0	8 1 6	
		2021年	2 3 4, 9 3 4	9 5 8	
	5カ年平均	2 7 7, 0 4 3	8 9 2		
	2022年見通し	2 3 4, 0 0 0	9 6 2		
概要	<p>入荷量は前年並か。年明けからの天候で開花も遅れている状況もあり、4月下旬予定の商品が5月へずれ込む商品も多々あり。5号中心の取り扱いが多く、褐色系の額アジサイと八重系の引合いは強い。多品種小ロット生産が多くて近年小鉢の生産も増えてきており、相場は前年より上がる見込み。 前年5月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（53.9%）、2位群馬（12.5%）、3位埼玉（9.1%）となっている。</p>				
ス パ テ ィ フ ィ ラ ム	実 績	2017年	2 4, 5 0 5	2 5 4	
		2018年	1 7, 8 9 4	2 9 6	
		2019年	1 8, 7 7 9	2 9 1	
		2020年	1 7, 5 9 2	3 1 1	
		2021年	1 6, 2 1 7	3 4 4	
	5カ年平均	1 8, 9 9 7	2 9 5		
	2022年見通し	1 5, 0 0 0	3 5 0		
概要	<p>入荷量は前年より減少か。 母の日向けの3号の生産者が1件作付けが今季無い為、特にポットサイズの入荷量が減少する見込み。 入荷量が増える見込みは低く、物量減数でポットもの中心に平均単価上昇の見込み。 前年5月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位三重（54.0%）、2位愛知（19.4%）、3位静岡（18.3%）となっている。</p>				
カ ー ネ ー シ ョ ン	実 績	2017年	4 7 2, 2 0 8	4 7 4	
		2018年	3 7 7, 2 9 9	4 9 3	
		2019年	3 6 3, 0 0 9	4 4 3	
		2020年	2 1 5, 5 6 2	5 0 2	
		2021年	2 3 7, 3 6 6	5 4 8	
	5カ年平均	3 3 3, 0 8 9	4 8 6		
	2022年見通し	2 3 7, 0 0 0	5 4 9		
概要	<p>入荷量は前年並か。委託注文が多く競売品は活発な取引が見込まれる。 母の日が一番早く来る年なので、花咲が固くならないようお願い。 前年5月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（55.5%）、2位群馬（16.3%）、3位茨城（6.8%）となっている。</p>				



## いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.587  
2022年5月発行  
農業水産局農政部食育消費流通課  
〒460-8501  
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号  
電話 (052) 954-6434